

後藤 靖教授退任記念論文集の刊行にあたって

経済学部長 三 好 正 巳

後藤 靖先生のご退職にあたり、『立命館経済学』に記念論文集を特集し刊行することいたしました。

後藤 靖先生は、1991年3月末で定年をむかえられ、立命館大学を退職されます。先生は、1956年11月立命館大学経済学部にて助教授として赴任され、爾来30数年にわたって、立命館大学と経済学部の発展に尽力されてきました。この間の先生の多大のご功績をたたえ、またそのお人柄を敬愛し、ここにささやかながら記念論文集をお贈りすることにあつ次第です。

後藤先生は、1926年に佐賀市にお生まれになり、敗戦後間もない1946年に京都大学経済学部にご入学、同大学院をへて1950年京都大学助手に就任されました。1956年に立命館大学に赴任されてからは、1964年に教授に昇任され、日本経済史、一般経済史などの担当者として研究・教育に努められてきました。この間1968年には京都大学において経済学博士の学位を授与されています。また、1975年、1985年の2回にわたって、ソ連科学アカデミー交換研究員として短期の留学をされ、1987年9月から1988年1月までイギリス・シェフィールド大学客員教授として渡英されています。

後藤先生のご研究は、明治、大正期の政治・経済史を中心として、広範かつ大量の業績をあげられています。したがって、ここにすべての業績を紹介することは、はなはだ困難なことであります。いまあえて、大胆に、先生の業績をまとめるとしたら、一つは、立命館大学に赴任された初期のころの自由民権運動、士族反乱の研究の業績をあげることができましょう。これらの研究は、明治維新を性格規定するうえで、不可欠なもので、学界の評価も高い仕事の一部をなしているものです。この領域の業績は、単著、共著、論文、書評などを含めると膨大なものとなっていますし、その範囲は自由民権運動、士族反乱はも

とより地租政正反対一揆から府県会闘争などと広範なものとなっています。二つには、明治維新の性格を、民衆の側から、したがって階級闘争から規定しようとする先生のご研究は、さらに階級構成分析、近代天皇制の研究へと展開されています。明治維新の性格に規定された天皇制が変化していく過程が、下からの変革、階級闘争を基礎に展開したものではなかったことから、天皇制の「上から」の変化としてとらえることを主張されています。ここにも、先生の階級闘争を重視される視点が貫徹しているといえましょう。また、この「上から」の変化は、天皇制を規定するうえでは、近代天皇制の社会構成体としての分析を不可欠とするもので、この社会構成体、さらには国家の問題は、つねに先生の念頭をはなれなかった課題ではなかったかと思われます。階級構成の分析やボナパルティズム論の業績は、その一例をなすものであります。さらに三つには、歴史的資料の整理・編集、解題・解説、伝記などの業績であります。このなかには、『西園寺公望伝』第一巻（共著）など、立命館学園の歴史にかかわる仕事も含まれています。

後藤先生は、その明快にして透徹した論理、シェーマを重視する厳密な分析の学風と情に厚いお人柄をもって、研究はもとよりのこと教育にも情熱をそそがれてきました。いま、先生の教え子は、研究者をはじめひろい分野で活躍しており、先生の思想と生きざまは脈々としてうけつがられています。

また、先生は、大学の運営・管理のうえでも、多くの足跡をのこされています。1976年から3カ年にわたって、教学担当常務理事を務められたのをはじめ、1984年から1985年にかけて長期計画事業事務局長として、募金事業の実質的な責任者となり、立命館大学創始120年・創立90周年の記念事業、第3次長期計画にも深くかかわってこられました。そのほか図書館長、人文科学研究所所長、二部協議会委員長、大学協議員などの役職を歴任され、立命館大学の教学上きわめて大きな足跡を残されてきました。1975年からは日本学術会議第10期会員、1978年からひきつづき第11期会員として、また1976年から1980年まで大学基準協会評議員を務められ、学術・文教政策のうえで、社会的に貢献をされてきました。

後藤先生は、研究・教育はもとより大学運営・管理、社会的活動と広範な業績を残されています。世界状況もたらす経済学上の今日の問題にたいしてわたくしどもは苦闘をしいられ、また経済学部がせまられる課題の重さが思いしらされると、いまこそ先生の力が必要とされます。そうしたときに、先生が定年退職されることは、経済学部にとっておおきな痛手ではありますが、これも現世の約束事でやむをえないことであります。

ご健康に気をつけられ、今後ともあらたなご活躍をつづけられるとともに、わたしどもへのご指導をお願いして、送別の言葉とさせていただきます。

